



プレスリリース

札幌商工会議所 定期景気調査（3月）の結果について

札幌商工会議所では、会員企業を対象に毎月各業界の業況等を調査し、景況把握に活用しております。

この度、2026年3月分調査を取りまとめましたので、ご報告いたします。

<調査概要>

- 調査内容：【毎月調査】 ①3月の業況と先行き見通し
【付帯調査】 ②円安基調が業績に与える影響
③金利上昇が貴社の業績に与える影響
※日本商工会議所 LOBO 調査と同様

○調査期間：2026年3月5日(木)～3月19日(木)

○調査対象：札幌商工会議所会員企業のうち743社

○有効回答数：334社

○調査結果概要：

- ①3月の業況と先行き見通し：全産業合計の業況DIは▲9.8と、前月から3.9ポイント悪化。先行き見通しDIは▲15.7と悪化の見込み。
- ②円安基調が業績に与える影響について、「デメリットの方が大きい」が44.2%と最多となり、ついで「メリットもデメリットもない」が多い結果となった。また、「メリットとデメリットは同程度」は8.9%、「メリットの方が大きい」企業は0.6%にとどまっている。また、具体的な影響として「原材料、部品、商品等の仕入価格の上昇に伴う負担増」が29.3%と最多で、ついで「燃料・エネルギー価格の上昇に伴う負担増」「仕入コスト上昇分を販売・受注価格へ転嫁できず収益悪化」が多い結果となった。
- ③金融正常化が業績に与える影響について、「メリットの方が大きい」と回答した企業は、5.3%にとどまる一方、「デメリットの方が大きい」が44.2%となり、「デメリットは甚大」(0.9%)と合わせると半数近くの45.1%の企業が金利上昇によるデメリットを受けている。また、「円安の進行(1ドル=165円程度)」と「金利上昇(現在の金利 プラス0.25~0.5%)」では、「円安の進行の方が影響が大きい」が28.5%、「金利上昇の方が影響が大きい」が24.6%となり、円安の進行の方がやや影響が大きい結果となった。

※調査結果詳細は別添資料をご参照ください。

札幌商工会議所定期景気調査（過去の当所調査結果をご覧ください）

https://www.sapporo-cci.or.jp/web/purpose/10/details/post_51.html

日本商工会議所 LOBO 調査 <https://cci-lobo.jcci.or.jp/>

日本商工会議所では、各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」（採用、設備投資、賃金動向等）を全国ベースで毎月調査する「商工会議所 LOBO 調査」を実施し、その結果を集計・公表しています。

※LOBOとは「CCI (CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY) –QUICK SURVEY SYSTEM OF LOCAL BUSINESS OUTLOOK」（商工会議所早期景気観測）からとった略称。



<本件担当>

札幌商工会議所 企画広報部 企画課

TEL：011-231-1360 E-mail：kikaku@sapporo-cci.or.jp